

電子書籍と音楽業界に与えた海賊版サイトの影響

～海賊版サイトの功罪～

1200406 岩田一輝

高知工科大学 経済マネジメント学群

1. 概要

この研究は、海賊版サイトの利用者の動向を調査し、利用者を減らすための対策を考案するものである。海賊版サイトの存在は、出版業界や音楽業界に数多くの悪影響を与えている。その問題を解決するために、海賊版サイト利用者を正規の電子書籍や音楽配信サービスに誘導することが有効だと考えた。

仮説は2つである。1つ目は、正規の電子書籍や音楽配信サービスの利用者の中、一定数は先に海賊版サイトを利用していること。2つ目は、海賊版サイトの利用者を減らすには、正規の電子書籍や音楽配信サービスの無料体験を大々的に行うことが有効であること。この二つである。

仮説を検証するために、Google フォームを使い、128名を対象にアンケート調査を行った。

結果、正規のものを利用している人の半数以上が、海賊版サイトを先に利用していることが、電子書籍と音楽配信サービスの両方に関して分かった。

また、海賊版サイト利用者を減らすための対策として、正規サービスの無料体験や内容の紹介によって、正規サービスのアピールをすること。海賊版サイト利用者の良心や罪悪感を刺激する情報を広めていくことこの二つが有効であると結論付けた。

2. 背景

現在、漫画業界や音楽業界を悩ませている大きな問題がある。違法に運営されている、いわゆる「海賊版サイト」である。通常、電子書籍や配信されている音楽は、月額でいくらかを支払い読み放題聴き放題のサービスに加入することで楽しむことができる。もしくは、一つの作品に正規の料金を支払い鑑賞するものである。そうすることで、作品に携わった人々とサービスを運営している企業にお金を支払われるの

だが、海賊版サイトではそうはいかない。

海賊版サイトでは、著作権の持ち主や作者に無許可で漫画を大量にアップロードし、音楽を聴けるようにしている。

海賊版サイトの最大の問題点は、作品に携わってきた人々には一銭も支払われない点である。本来受け取るべき人々が受け取るはずのお金を、横取りしているような形になってしまふのが、海賊版サイトの一番の問題である。海賊版サイトを運営している者にのみ広告料などのお金を支払われる。他にも、海賊版サイトはセキュリティが確保されていないために、架空請求のサイトに飛ばされ、また鑑賞に使用しているデバイスがウイルスに感染する危険性もあり、こちらも問題だ。

代表的な海賊版サイトに、「Music FM」や、現在は閉鎖されている「漫画村」がある。2019年9月に、漫画村の元運営者がフィリピンから強制送還のために移送された。その後、福岡県警などが著作権法違反の疑いで逮捕するそうだ。

本来このような海賊版サイトは摘発され、閉鎖されていくのだが、こういったサイトは法の抜け道を探し出して閉鎖されないようにしても、潰しても新しく生まれてくる。そのため、閉鎖させてもキリがない状態であり、深刻な問題であるとわかる。

先ほど挙げた「漫画村」だが、閉鎖されたのは2018年4月である。その1か月後、電子書籍の売り上げが倍増したという記事が日本経済新聞電子版に掲載された。この売り上げの増加に漫画村の閉鎖がかかわっているのか？実際に、「インフォコム」や「イーブックイニシアティブジャパン」という、漫画の電子版を配信する企業の売上高が、二年間で増収率が5割を超えた背景がある。漫画村という海賊版サイトの存在の仕組み自体は悪ではあるが、その存在に触れて電子書籍の便利さを知ったために、電子書籍の売り上げが増えた可能性は無視できない。

違法とされる海賊版サイトによって人々が電子書籍の良さを知り、正規の手段で利用することに興味を持ったかもしれない、という可能性を見つけた。そこで今回、海賊版サイトや正規の電子書籍などを利用したことがある人々にアンケートを取り、なぜそれらのサービスを利用するに至ったのかについて考察する。

3. 目的

本研究の目的は、海賊版サイトの利用者の動向を調査することである。

まず海賊版サイトの問題点は、背景でも述べたように、本来お金を受け取るべき著作者にお金が行き渡らない点である。その問題の対策として、海賊版サイト自体を閉鎖させることは最も有効な対策の一つである。しかし、海外の法律にサイトが守られていたり、次から次へと新しく海賊版サイトが生まれたりするなどして、海賊版サイトという存在に対処することはキリがない。

そこで、海賊版サイトを利用している人間を対処すればいいのではないかと考えた。海賊版サイトから離れさせることが出来れば、広告収入が減少し運営が困難な状況に追いやることができると考えた。

具体的には、海賊版サイトの利用者を「Apple Music」や、「Kindle」といった正規のサービスに移行させることが根本的な問題の解決に繋がるはずだ。本来受け取るべき方々にお金が行き渡るためである。

本研究が海賊版サイト利用者を減らすことの一助になれば幸いである。

4. 仮説

まず初めに、これ以降、曖昧さ回避のために「定額制の読み放題サイト」「定額制の聴き放題サイト」「一冊ずつ販売している電子書籍」「一曲ずつ、もしくはアルバム単位で販売している音楽配信サイト」これらを提供しているサービスのことを「正規サービス」と表現する。

今回検証する仮説は2つある。

①正規サービスを利用している人のうち一定数は、海賊版サイトによって電子書籍や音楽の配信サービスの便利さに気づき、利用しだしたと考えている。

②そのため海賊版サイトの利用者への対策としては、正規サービスの無料体験を大々的に宣伝することが有効であると考えられる。

5. 研究方法

海賊版サイトや正規の電子書籍を利用している人から、Google フォームを利用し、アンケートを取る。海賊版サイトと正規サービスの利用状況や満足度、海賊版を選んだ理由や、海賊版の後に正規サービスを利用した人が、海賊版と正規サービスの両方を利用したことがある人に、どちらを先に利用したのかを確認する、といった内容のものである。

海賊版サイトが正規サービスの魅力を伝えることに、一役買っていたという仮説を証明するためである。

また、海賊版サイトが閉鎖される前後の売り上げや利用者数のデータを調査し考察する。

6. 結果

6.1 電子書籍の海賊版サイト、正規サービスについて

Google フォームを用いて、128人の回答を集めた。そのうち67人(52.3%)が海賊版の電子書籍を利用した経験があることが分かった。(図1より)

その67人のうち、36人(約54%)が海賊版サイトを利用した後に正規サービスを利用し始めたことがわかった。

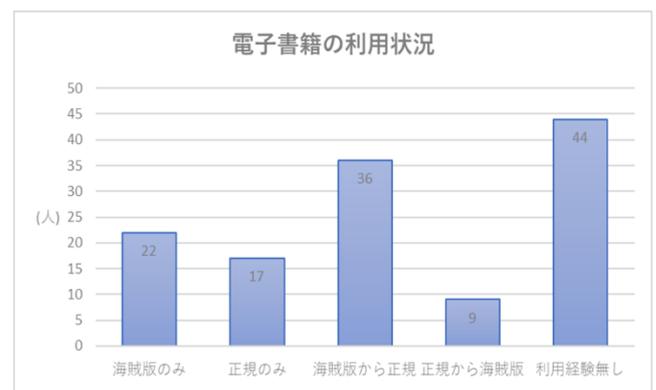


図1. 電子書籍の利用状況を128名に対して聞いたアンケートの結果

正規サービス利用者のうち58%(36人)が、先に海賊版サイトを利用しているということが図1よりわかる。よって、海賊版サイトが正規サービスを利用する前に、電子書籍

の使用感を体験させる役割を果たしている可能性が考えられる。

そこで、この36人を対象に海賊版サイトから正規サービスに切り替えた理由を4つ設けた。そして、それぞれどれだけ当てはまるかについて7段階評価をから調査した(図2)。1に近いほど当てはまり、7に近いほど当てはまらないというものである。

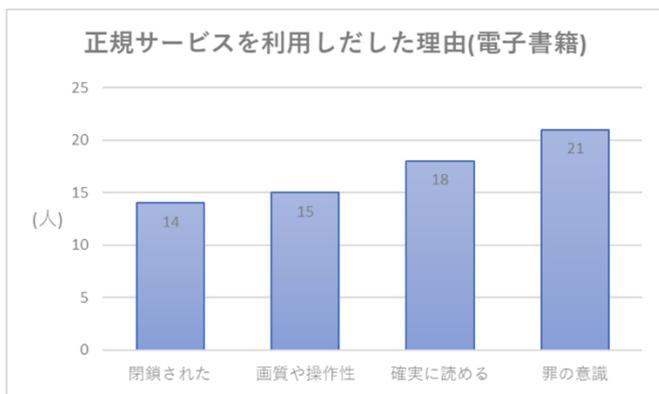


図2. 「海賊版サイトを先に利用し、その後正規サービスを利用し始めた」に投票した36人を対象に取ったアンケート結果。正規サービスを利用し始めた理由について。

すると、「海賊版サイトよりも画質や操作性が良いから」にあてはまると回答した人は15人(42.9%)、「読みたい本を確実に読むことができるから」に当てはまると回答した人は18人(50%)だった。これは、仮説にある「海賊版サイトにより正規サービスの便利さに気づき、利用しだした」に当てはまるので、仮説①は正しかったと言えるはずである。また、最も当てはまる項目が「海賊版サイトを利用していることに対して罪の意識を感じたから」であり、全体の58%が1.2.3(当てはまる)に投票している。

6.2 音楽配信サービスの海賊版サイト、正規サービスについて

Googleフォームを用いて、先ほどのアンケートと同じ128人の回答を集めた。そのうち77人(60%)が正規の音楽の配信サービスを利用している、または利用した経験があることが分かった。(図3より)

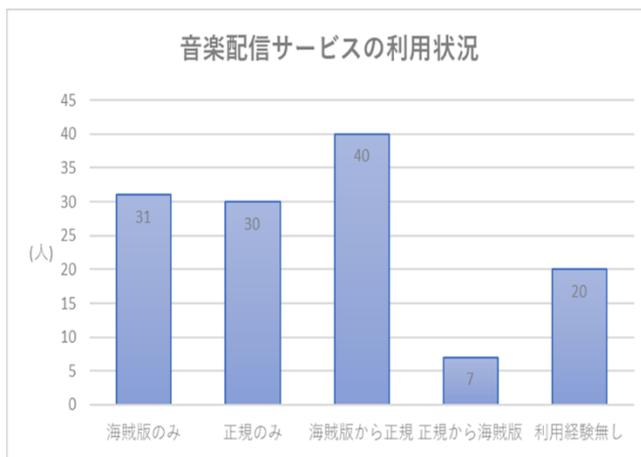


図3. 音楽配信サービスの利用状況を128名に対して聞いたアンケートの結果

その77人のうち、40人(約51.9%)が海賊版サイトを利用した後に正規サービスを利用し始めたことがわかった。

よって、海賊版サイトが正規サービスを利用する前に、音楽配信サービスの使用感を体験させる役割を果たしている可能性が考えられる。

そこで、この40人を対象に海賊版サイトから正規サービスに切り替えた理由を4つ設けた。そして、それぞれどれだけ当てはまるかについて7段階評価をから調査した(図4)。1に近いほど当てはまり、7に近いほど当てはまらないというものである。

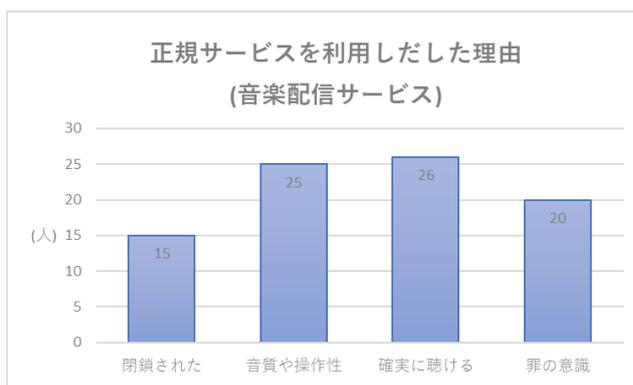


図4. 「海賊版サイトを先に利用し、その後正規サービスを利用し始めた」に投票した40人を対象に取ったアンケート結果。正規サービスを利用し始めた理由について。

すると、「海賊版サイトよりも音質や操作性が良いから」にあてはまると回答した人は25人(62.8%)、「聴きたい音楽を確実に聴くことができるから」に当てはまると回答した

人は26人(66.7%)だった。これは、仮説にある「海賊版サイトにより正規サービスの便利さに気づき、利用しだした」という傾向が電子書籍よりも強い。音楽配信サービスに関しても、仮説の前半は正しかったと言えるはずである。

そして、音楽配信サービスに関しても20人(50%)が「海賊版サイトを利用していることに対して罪の意識を感じたから」についてもあてはまると回答している。

7. 海賊版サイト利用者への対策

次に、海賊版サイトの利用者への対策(海賊版サイトの利用者を減らす方法)を考える。アンケートの結果により、仮説の通り、正規サービスの画質・音質、操作性などの高さをアピールすることが効果的だと考えられる。そうすることで、ある一定の海賊版サイト利用者を正規サービス利用者へと変えることが可能だと思われる。

そして、罪の意識を感じて正規サービスの利用を始めた人も半数以上いることが分かった。そのため、海賊版サイト利用者の罪悪感を煽るような情報を発信することが有効であると考えられる。具体的には、作品が売れずに苦しんでいる作家のドキュメンタリーを配信する。一人が海賊版サイトを見ることで発生する損害額をアピールするなど考えられる。

海賊版サイトの閲覧に対する対策として次の二つが考えられる。

- ①正規の電子書籍の無料体験のキャンペーンを積極的に行い、広告活動を行う。
- ②海賊版サイトを利用することによって、作家の生活が危機的状况に陥っていることや、出版業界の苦しみなどをアピールする、そうすることで、海賊版サイト利用者の罪悪感を刺激し利用し辛くする

さらに、②に関しては海賊版サイトを離れた際、もう電子書籍を読まなくなったり、音楽配信サービスを利用しなかったりする可能性があるかもしれない。そこで海賊版サイトや正規サービスのどちらか一方でも使ったことがあると答えた84人(正規と海賊版か問わず電子書籍の利用経験がある人)と107人(正規と海賊版か問わず音楽配信サービスの利用経験がある人)に、インターネットを使って漫画を読んだり音楽を聴いたりすることへの抵抗感はないかを調査した。すると、インターネットを用いて漫画を読んだり音楽を聴い

たりすることに関する抵抗感は極めて低いことが分かった。インターネットを使って漫画を読むことに抵抗感があると答えたのは8人(9.5%)、抵抗感がないと答えた人は71人(84.5%)だった(図5より)。

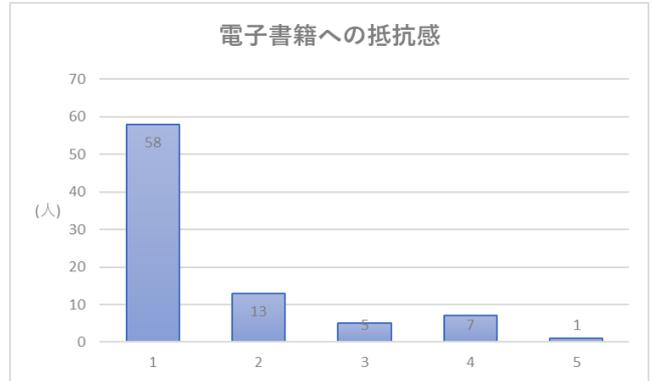


図5. インターネットを使って漫画を読むことへの抵抗感の強さを調べたアンケート結果(84人)。1に近いほど抵抗感を感じておらず、5に近いほど抵抗感を感じている。

また、インターネットを使って音楽を聴くことに対して抵抗感があると答えたのは10人(9.4%)、抵抗感がないと答えたのは87人(81.3%)だった(図6より)。

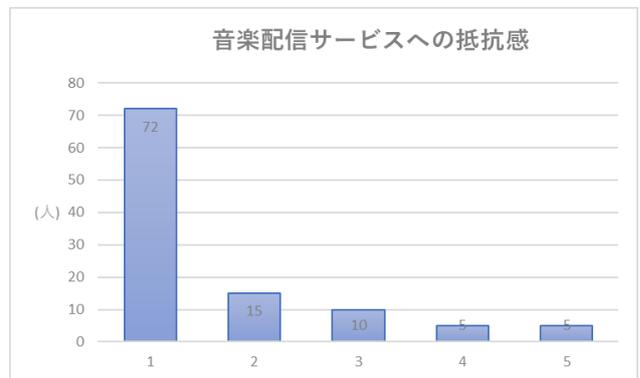


図6. インターネットを使って音楽を聴くことへの抵抗感の強さを調べたアンケート結果(107人)。1に近いほど抵抗感を感じておらず、5に近いほど抵抗感を感じている。

これらによって、電子書籍や音楽配信サービスを体験している人は、インターネットを使い作品を鑑賞することへの抵抗感を感じにくいことがわかる。そして、正規サービスを利用している人の中でも、海賊版サイトが閉鎖されたから利用を始めた人も一定数いることがわかる(図2,図4より)。電子書籍では14人(約39%)、音楽配信サービスに関しては15人(約38%)であった。つまり、海賊版サイトを使って

いる人がその利用をやめた時、正規サービスに人が流れると考えられる。

8. 結論

仮説は概ね合っていた。そして、海賊版サイトを利用していることに対する罪悪感によって、正規サービスの利用に至った人が約4割いることがわかった。

そのため、①正規サービスの無料体験や内容の紹介によって、正規サービスのアピールをすること。②海賊版サイト利用者の良心や罪悪感を刺激する情報を広めていくこと。

この二つが、海賊版サイトの利用者を減らすための対策として有効であるという考察を、本論文の結論とさせていただく。

9. 謝辞

最後に、あまり前例のない研究の方向性を示し、ここまで導いてくださった指導教官の上條良夫教授に感謝いたします。それからアンケートに協力してくださった研究室の仲間たちや、友人を含む128名の方々にも厚くお礼を申し上げます。

10. 参考文献

出典

コミック電子配信が急拡大「漫画村」閉鎖で5割増収

<https://r.nikkei.com/article/DGXMZO50946150S9A011C1EA5000?s=5>